

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会 177号

一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認
 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行



★まちがいさがし★
 ひだり みぎ
 左と右でまちがいが
 3つあります。
 こたえは最終ページに
 のっています。

もくじ
 目次

ひとり じんけん まも しゃかい ふい だ
 一人ひとりの人権が守られる社会へ踏み出そう!2

しつこくしつこくず〜っと続けていくポジティブ生活文化交流祭4

しんしょくいんしょうかい
 新職員紹介5

ほっかいどう さんか へん
 ピープルファースト北海道に参加して〜メンバー編〜6

ほっかいどう さんか しんじん へん
 ピープルファースト北海道に参加して〜新人スタッフ編〜8

つく おかやま
 ジーンズ作りに岡山へ9

かいさい
 ジャマイカまつり、開催10

けんそう たんばさきやま
 まちの喧騒をはなれて、いざ丹波篠山へ12

どんどんファッションショー!13

こそだ にっき
 スタッフ子育て日記15

かつどう
 活動のあと16

一人ひとりの人権が守られる社会へ踏み出そう！

新しい年が始まりました。当会では年末に餅をつき、門松を作るのが恒例行事になりました。ここ数年はコロナ禍だということもあり、ついたお餅をご近所の方々に配ることは控えています。門松を作るために竹を切り出しに行かせてもらったり、ご近所のいろいろな方から南天や鉢に見立てたバケツを分けてもらい、お礼に門松を届けたり、、、と、正月の縁起物がつながりを作ってくれるきっかけになっています。今年もさまざまにつながりに感謝し、皆様と協同しながら歩んでいきたいと思っています。

さて、障害者権利条約が成立して15年、日本が批准して8年が経過した昨年8月、国連障害者権利委員会による対日審査がおこなわれ、9月には総括所見、政府への勧告が出されました。総括所見では、懸念事項として、多くの施策が“パターナリスティック・アプローチ”によって進められていることにより、人権モデルと調和していないことが一番に指摘されています。“パターナリスティック・アプローチ”とは、強い権力を持つ“当事者でない者”が“当事者の利益のために”と称して、本人の意思にかかわらず介入・干渉・支援する方法のことであり、この方法に基づいた日本の施策は医学モデルであり、“私たちのことを私たち抜きに決めないで”をスローガンに制定された障害者権利条約の基本理念にも反しているといえます。

なかでも、権利条約19条「自立した生活および地域生活への包容」と24条「教育」については、厳しい改善勧告がなされました。なかなか進まない脱施設化と精神病院への強制入院制度、分離教育は国際的にみても人権的に大きな課題を有しています。

日本では少子化がすすんでいるにもかかわらず、特別支援学校、支援学級に籍を置く子どもが増加しています。大阪市では、これまで「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を基本的な考えとしており、希望すればどんなに障害の重い子どもも地域の学校で学ぶことを保障してきました。また、特別支援学級に在籍しても画一的に支援学級で学ぶということではなく、本人（保護者）が希望する時以外は通常学級で学ぶ取り組みを続けています。しかし、昨年4月に突然、文部科学省より「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」という通知が出され、支援学級に在籍する子どもは、“週の半数以上は支援学級で学ぶように”と通達されました。また、通常学級で学ぶ時間の多い、いわゆる“大阪方式”は“不適切事例”として明示されました。この通知については、対日審査においても「撤回せよ」と強く要請されましたが、文部科学省大臣は記者会見において「この通知は

むしろインクルーシブを推進するものでございます。勧告で撤回を求められたのは大変遺憾であると思っております。」と答え、撤回する意思のないことを表明しています。勧告では、そもそも“インクルーシブ”等の用語の翻訳が不正確だとも指摘されており、日本の教育が“インクルーシブ（包括的）”という用語を用いて排除、分離していることにも言及されています。文部科学省の通知を受けた大阪府下の自治体の中には、来年度からの支援教育の見直し通知を保護者に出し、保護者からの説明要求が殺到したために見直しを撤回したところもあるなど、大きな混乱を招いています。

みらくるちっぴでは今年、数名の中学生が高校受験を控えています。中学校の先生の勧めや保護者の願いもありますが、何よりも子どもたち自身が“自分で選び、自分で決める”にはどう支援すればいいのか考え、子どもたち対象の進路勉強会を重ね、オープンスクールには支援者も一緒に足を運びました。受け入れ体制が整っている学校もあれば、暗に拒否しているような対応の学校もありますが、子どもたちが悩むポイントは、クラブ活動の内容、学校行事、学校や生徒の雰囲気、通学方法・時間、学力のレベル、先生の印象など多岐にわたっており、大人の受け取り方と違っていることも多々あります。そして、小学校や中学校入学時にも事前に聞かされていたのは“うちの学校にはエレベーターはありません”“個別に対応するのは無理です”などの否定的な対応であったことを思い出します。それでも、実際に通いだしてみると現場の先生たちが熱心に対応を考えてくださったり、友だちが自然にフォローしてくれるようになったりしたことも一度や二度ではありません。“まずは共にいること”が大切だと感じており、文部科学省が多様性への対応を“分離ありき”で考えていることに危機感を覚えています。文部科学省の通知とその対応については、障害児の親や研究者、当事者団体などが各地でさまざまな動きを起こしつつある状態ですが、当会でもさまざまな団体、個人と協同して取り組んでいきたいと考えています。“つながりの力”を信じ、個々人が自分なりの一歩を踏み出せる年になりますように。

（勝井 操）



しつこくしつこくず〜とつづけていくポジティブ生活文化交流祭

「今年^{ことし}は長居^{ながい}でやるんや！」と封筒^{ふうとう}の資料^{しりょう}を見ながら、頭^{あたま}の中^{なか}でたくさん^{ひと}の人の顔^{かお}が浮か^{うか}んできた。わくわくしている自分^{じぶん}が、そこにいた。

コロナ禍^かのためこの2年間^{ねんかん}、「ポジティブ生活文化交流祭^{せいかつぶんかこうりゆうさい}（以降^{いこう}「ポジ祭^{さい}」と表記^{ひょうき}）」も、オンライン開催^{かいさい}だった。当会^{とうかい}のメンバー^{えいぞう}さんも映像^{せいさく}を制作^{おく}してメッセージ^{おく}を送^{おく}ったり、オンラインで参加^{さんか}した。そこにあるものは「東北^{とうほく}、熊本^{くまもと}のなかま^{なかま}とつなが^{つな}がっていたい！」という強い想^{つよ}いの表^{ひょう}出^{しゅつ}だったと感^{かん}じている。

今年^{ことし}で13回目^{かいめ}を迎^{むか}えるポジ祭^{さい}。今回^{こんかい}は、実行委員会^{じっこういんかい}立ち上げ^あから参加^{さんか}した。初回^{しょかい}から、熱^{あつ}い議論^{ぎろん}が繰^くり広^{ひろ}げられる。「コロナ感染対策ガイドライン^{かんとんたいさく}は？」「ステージ（パフォーマンス）^{ながいこうえん}は？」など、長居公園^{ながいこうえん}で開催^{かいさい}するため大切な項目^{たいせつこうもく}だ。特に印象^{とく}的^{いんしょうてき}だったことは、ポジ祭^{さい}を続^{つづ}けていくこと^{こと}の意^い味^み・意^い義^ぎをみんな^{みんな}で話^{はな}す場面^{ばめん}だ。参加者^{さんかしゃ}の一人^{ひとり}が「（被災地^{ひさいち}障^{しょう}害^{がい}者^{しや}支援^{しえん}）



は) しつこくしつこく、お互^{たが}い^いが行^きったり来^きたりしながら、双方^{そうほう}向^{こう}の救^{きゅう}援^{えん}活^{かつ}動^{どう}をおこな^{おこな}ってきた。その1つ^{ひとつ}である『東北⇔熊本⇔関西^{とうほくくまもとかんさい}ポジティブ生活文化交流祭^{せいかつぶんかこうりゆうさい}』は、風化^{ふうか}させないために続^{つづ}けてきた。しかし、ここ数年^{すうねん}の豪雨災害^{こううさいがい}や地震^{じしん}で、各地^{かくち}の障^{しょう}害^{がい}者^{しや}の暮^くらしや支^し援^{えん}活^{かつ}動^{どう}が、ダメージ^うを受けている。そのた^たび全^{ぜん}国^{こく}の人^{ひと}が、つな^{つな}がり^{がり}を広^{ひろ}げている。

オンラインで全^{ぜん}国^{こく}各^{かく}地^ちの人^{ひと}が、参加^{さんか}できること^{こと}も確^{かく}信^{しん}した今^{いま}『被災障^{ひさいしょう}害^{がい}者^{しや}⇔関西^{かんさい}ポジティブ生活文化交流祭^{せいかつぶんかこうりゆうさい}』へ、題^{だい}名^{めい}を改^{あらた}め^めてはどうか？』という議^ぎ題^{だい}。これ^{これ}を口^{くち}火^びに、いろん^{いろん}な意^い見^{けん}が交^{かわ}わされた。どれ^{どれ}も前^{まえ}向^むき^むな意^い見^{けん}ばかり^{ばかり}で、その場^ばにいた皆^{みな}さん^{さん}が、「ポジ祭^{さい}を成^{せい}功^{こう}させたい！」「続^{つづ}けていくぞ！』という意^い気^き込^こみ^みが伝^{つた}わ^わって^{って}くる。私^{わたし}も「どん^{どん}な形^{かたち}でも参^{さん}加^かするぞ！」と、一^{ひとり}人^に鼻^{はな}息^{いき}を荒^{あら}くして^{して}いた。

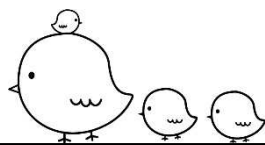
実行委員会^{じっこういんかい}の話^{はなし}を持ち帰^もり、半^{なか}ば強^{ごう}引^{いん}に巻^まき込^こんだス^{ふく}タ^{めい}ッフ^{さん}含^かむ^か4名^たで、参^{さん}加^か企^き画^{かく}を立^たてる。昨^{さつ}今^{こん}の物^{ぶつ}価^か高^{こう}騰^{とう}に頭^{あたま}をかか^かながら、生^{いく}野^のら^らし^しさをテ^いマ^まにした“チ^ちヂ^ぢミ^みと今^{いま}里^らクラ^らフト^とビ^びール”を、販^{はん}売^{ばい}すること^{こと}に。売^うり上^あげ^げは、ゆ^ゆめ^め風^{ふう}基^き金^{きん}に寄^き付^ふすること^{こと}が決^きま^まった。

11月23日^{がつにち}、当^{とう}日^{じつ}は天^{てん}気^き予^よ報^{ほう}通^{とお}りの雨^{あめ}。ポ^ポジ^{さい}祭^{さい}は天^{あめ}気^きに恵^{めぐ}まれたこと^{こと}が、ほとん^{ほとん}どな^{ない}い。テ^たント^ん立^たて、鉄^{てつ}板^{ばん}を設^せ置^ちし、雨^{あめ}に濡^ぬれながら、準^{じゅん}備^びにてん^{てん}やわん^や。とこ^{ところ}が開^{かい}催^{さい}時^じ刻^{こく}の11時^じになると、3年^{ねん}ぶ^ぶりの再^{さい}会^{かい}を待^まちわ^わびて^ていたか^かのよう^{よう}に、雨^{あめ}がや^やんだ。ほ^ほどな^{なく}くして「お久^{ひさ}し

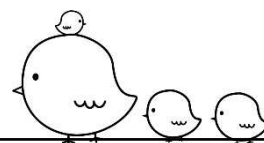


ぶりです！」「お元気でした？」と、聞き覚えのある声がある。他事業所の方や、この日のために福島から来た方が、挨拶兼ねて注文してくれる。懐かしい顔ぶれに、自然と笑みがこぼれてくる。お昼を過ぎると「チヂミくださ〜い」「クラフトビール、どれが美味しいの？」と、お客さまが増えてくる。行列ができる出店もあり、ポジ祭目当てに来た人、通りすがりの人など、悪天候にしては盛況だ。ありがたいことに、クラフトビールは13時に、チヂミは14時で完売。ステージでは、歌や演奏のパフォーマンスが行われている。やさしく楽しい時間が流れていたのだが、誰かのいたずらなのか、終了15分前にまさか（やはり？）の雨。またもや濡れながら、てんやわんやと片付ける。なのに私の心の中は、なぜか晴れやかだ。どんなカタチでも、しつこくつながり続けることができると感じたからだ。

さけみあつこ
(酒見敦子)



新職員紹介



奥澤義之さん

2022年12月より、グループホームかのんに勤めさせていただいております。59歳のオールドルーキーとなります。こちらでお世話になる前は、電子部品メーカーでプリント配線板の設計を担当しておりました。自身の子供に発達障害があり、今まで色々お世話になった方々のような仕事がしたいとこの世界に飛び込んできました。経験も資格もない私のような者の話を聞いていただき、機会まで与えてくれた出発のなかまの会には大変感謝しております。ただ感謝するだけでなく、生きにくい世の中で支え支えられる社会の実現をめざして精進して行きたいと考えております。よろしく願い致します。

伊藤由紀子さん

以前は、老人介護に携わるお仕事をさせて頂いていましたが、障害をお持ちの方々の何かお手伝いが出来ればと思いお世話になる事となりました。メンバーさんに教えて頂く事も多く、とてもありがたいです。これからも宜しくお願いいたします。楽しみは、双子の妹と食事に行く事です。

ピープルファースト北海道に参加して～メンバー編～

旭山どうぶつえんに行っても楽しかったです。レッサーパンダをみても楽しかったです。ヒョウもみました。ライオンもみました。トラもいました。ペンギンもいました。オオカミもいました。おみやげも買いました。豚丼がおいしかったです。ナプキンを持っていくのをわすれてこまっていました。かえりの飛行機でTさんが発作でたいへんでした。でも無事にかえれて困らなかったです。(塚本莉朱実)



ピープルファースト韓国がいました。韓国からのビデオがありました。ネイル、ヘアアレンジ、ハンドマッサージ、肩のマッサージをやりました。ネイリストの人と一緒に写真を撮りました。2日目ホテル1人で寝ました。どうぶつえんに行きました。さるみました。ヒツジ、ブタ、ヤギみました。ひこうき羽田→旭川ねてました。着陸のドンで目がさめた。ホテルうさぎがいました。ホテル2日目けいたい写真とアプリパズルやりました。ビデオちょっと見ました。北海道はじめて行きました。またいつか北海道に行きたいです。つぶつぶとうきび入り知床鶏の糍ザンギ、ラーメンライス、ホテルの朝ごはん食べました。

どうぶつえん陸ガメいませんでした。2日目のホテルでメイちゃんいませんでした。メイちゃんはフロントの人が預かってくれて見つかりました。メイちゃんいなかったからさびしかったです。ホテル夕食が遅いからホテルの自動販売機に行ったけど、しんどかったのでやめました。ホテルに置いてあるペットボトルでお茶作りしました。2日目からくさホテル札幌の近くにあるセブンイレブンに行きたかったけど、夕食から帰ってきたのがおそいのでやめました。ホテルでメイちゃんとゆっくりしてました。3日目駅でお弁当かいました。食べる時間がないからひこうきの中で食べました。旭川のホテルでどうぶつえんのはなしがありました。夕食からかえってきたらイベントおわっていました。(小道由華)

ほっかいどうりょこう かんそう さんか きし
北海道旅行の感想を参加したメンバーにききとりをして記事にしました。

Q1. 楽しかったことはなんですか？

- どうぶつえん ペんぎんみた！
ぬいぐるみ買った！（山本晴美）
- おいしいもの食べた！
みんなで出かけたの、よかったなあ。（大浦隆男）
- 昼飯（河合康行）
- 朝風呂に入りに行ったこと。
朝ごはんのビュッフェがよかった～。（原田小夜子）
- 電車、関空。国鉄？（田中克典）



Q2. 楽しくなかったことはなんですか？

- ガラガラ（スーツケースの音）。（田中克典）
- 飛行機。いろいろ大変だった！…疲れた。（大浦隆男）
- 1日目に泊まったホテルにいたシマフクロウのホテルマン、怖かった。（山本晴美）
- そんなないわ！北海道やし！
ピープルファーストの会場は足が痛かったわ。（原田小夜子）



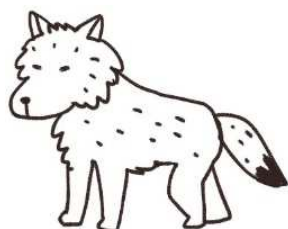
Q3. おいしかった食べ物、おしえて！

- カレー、海鮮丼、肉（田中克典）
- ケーキ、朝ごはん。
まぐろ、イクラ、イカ、ホタテが特においしかった。（原田小夜子）
- みそラーメン！（山本晴美）
- 朝食のメロンパンと ひみつ（河合康行）



ピープルファースト北海道大会に参加して～新人スタッフ編～

10月21日から2泊3日でピープルファースト大会に参加するため北海道へ行って来ました。私自身初めてのメンバーさんとの旅行ということもあり、旅行の日が近づくにつれ不安が大きくなっていきましたが、先輩に「なんとかなるよ。」と声をかけてもらい楽な気持ちになりました。出発の日の朝、タクシーが来る30分前から出かける準備万端でグループホームの外でタクシーを待ってるメンバーさんもいました。ギリギリになり慌てながらも空港に着き、離陸時はとても楽しそうにキャー！とはしゃいでいました。



旭山動物園で飼育員さんによる狼の生態についての説明を聞きながら見る餌やりは迫力満点でした。夜はジギスカン屋さんへ行き、美味しく食べました。TさんKさんはビール、Yさんはコーラを飲み楽しまれていました。Tさんはホテルへの帰り道「飲み過ぎたわ～あかん」とよくつぶやかれていました。

2日目、すっきり起きられバイキングへ。お腹いっぱい食べ、ピープルファーストの会場へ。Kさんは「なんか食べる？」とよく言われ、開会式終了後、コンビニへ昼食を買に行きました。昼食後、会場に戻りましたがロビーで過ごしていました。係の人に声をかけられ、「上の階でハンドマッサージや織物体験できますよ。」と教えていただき、ハンドマッサージに行きました。施術の方に「甘皮整えたらきれいになりますよ。」と言われ「いいですわ。」と断られていましたがマッサージが終わるぐらいに「爪。」とアピールされネイル体験もされました。終わると嬉しそうに何度もみせてくださいました。

最終日、朝食で海鮮を堪能できました。分科会へ。皆さん発言され、しっかりと参加されていました。人数が少なく、早く終わってしまい他の分科会を見てまわりました。楽しそうな場所や、少しピリピリした雰囲気のところもあったりと楽しめました。お土産も買い空港へ。出発10分前にOさんがてんかん発作を起こしました。先輩方がいらしたので初めての発作でも冷静に対応できました。飛行機では席がうまく取れておらず出発が遅れてしまいましたが、周りの方に助けていただきグループホームへ戻ってきました。初のピープルファーストは少しだけの参加でしたが、当事者一人一人に色々な経験、想いがあることを知りました。当事者間でのやりとりだけではなく想いやこの現状を色々なところに発信出来たらいいなと感じました。

(菊池快斗)

ジーンズ作りにおかやまへ

10月某日、コロナ禍の隙間を縫うようにOさんと岡山旅行に行ってきました。

今回の旅行の最大の目的は倉敷市児島にあるベティスミスというジーンズのテーマパークに行き、ジーンズ作りを体験する事です。

旅行2日目、岡山駅で同行のUさんと別れて児島を目指します。

順調に児島駅に到着し、駅を出ると「ジーンズの聖地・児島」の吊り看板と天井からぶら下がったジーンズがお迎えしてくれました。とは言えさすがに平日の午前中、人影もまばらでOさんも大手を振って道のだ真ん中を歩ける環境です。児島からはタクシーに乗ってベティスミスへ。15分ほどで予定通り到着。予約もしていたので早速ジーンズ作り体験に入ります。

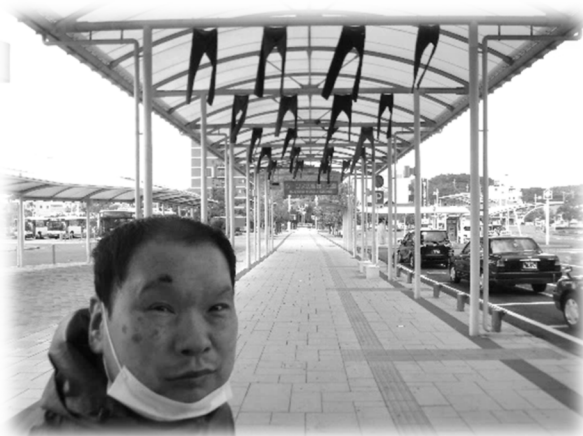
ジーンズ作りは本体のジーンズを決める、中央のボタンとリベット（ポケットを固定する丸い金具）を選んで自分で打つ、腰につけるラベルを選んで裾上げと共に付けてもらえば完成です。まずは本体のジーンズ選び。形、色、ストレッチの有無などなど試着を繰り返して一着厳選。続いてたくさんのボタン、リベットの中から時に悩みつつ、時に大胆に選んで決定。

お店のスタッフに手伝って貰いつつリベットは自分で打たれました。最後のラベル選びはお店のトレードマークの赤毛でアフロの女の子ベティちゃんを選んで終了。

しばらくジーンズミュージアムを見て回っていると裾上げ、ラベル付けも終わってOさんオリジナルジーンズの完成です。最後までしっかりやり遂げました！

Oさんの腰に赤毛でアフロの女の子を見たら少し幸せな気分になるかもしれません。ちょっとだけ気を付けてOさんの腰をチェックして見て下さい。

おくらこうへい
(小倉恒平)



本記事はみらくるちっぴが発行している「みらくるちっぴ通信」から転載しています。

ジャマイカまつり、開催！

みらくる ゆーすと（中高生の放課後等デイサービス）で『ジャマイカまつり』を開催しました。これは一昨年、ジャマイカを支援するNPO法人「LINK UP JAJA（リンコップ ジャジャ）」を立ち上げた、永村夏美さんからのお申し出で実現しました。テーマは『世界を知って大きな世界へ はばたこう！』、今の子どもたちにピッタリですね。

この日は、みんなで簡単に自己紹介した後、ジャマイカの歴史についてお話を聞きました。ジャマイカは長い植民地支配の後、60年前に独立しました。原住民は植民地支配初期に全滅させられ、その後アフリカから多くの黒人奴隷が連れてこられ、労働力にされた歴史から、今もアフリカルーツの方たちが多く住んでおられます。自然は豊かで美しいのですが、経済格差が大きく仕事も少ないため、貧しい人が多い国です。子どもたちは、ウサイン・ボルトに象徴されるように陸上の盛んな国だと認識していましたが、それは、ここ十数年のことだそうです。

その後、みんなでジャマイカ料理を作りました。献立はジャークチキン（シーズニングされた鶏肉を焼いたもの）とジャマイカ風赤飯、パティ（カレーの入ったパイ）、サラダ、シチューです。お米にココナッツミルクや豆、ニンニクやピーマンなどを入れると、子どもたちは「後で白米も食べたい」「オシは無理〜」などと難色を示していましたが、実際に食べてみると美味しかったようで、どんどんみんなの胃袋におさまっていきました。



午後からもプログラムは続きます。永村さん自身は高校生の頃、周りの同級生たちが続々と進路を決めていく中、「勉強も好きじゃないしな〜、特にしたいこともないしな〜」と進路を決めかねていたそうです。そんな時、学校の担任から「どこか行ってみたいところもないのか？」と尋ねられ、レゲエミュージックなどでなんとなく興味を持っていた「ジャマイカ」と答えたところ、「ジャマイカにも学校があるんじゃない？調べてみたら？」と言われ、初めてジャマイカを訪れたそうです。そして、自然の美しさと、貧困の中でも陽気に暮らすジャマイカ人に強烈に惹かれ、その後、留学や長期のボランティア活動を繰り返し、日本とジャマイカが連帯してジャマイカを支援することをライフワークにされています。日本での職業は介護ヘルパーですが、永村さんは「私は出稼ぎ労働者です」と言います。ジャマイカには仕事も少なく、ピザの関係で長期滞在も難しいので、日本でお金を貯めてはジャマイカへ行って活動するサ

イクルを繰り返しておられます。2019年には青年海外協力隊の環境教育隊員として現地入りしましたが、2020年のコロナウィルス流行により途中帰国、来年からまた2年間派遣されることになったそうです。そして、派遣終了後もジャマイカで障害者の居場所づくりをしたいと夢を語っておられました。

ジャマイカ人歌手の Missa Jさんやレゲエダンサーの Kiss Kiss さんも来てくださり、後半は大変盛り上がりました。レゲエのヒーロー、ボブ・マーリーの「One Love」をみんなで熱唱し、Kiss Kiss さんに振りを教えてもらいながらダンスを踊りました。レゲエダンスは、生活動作を取り入れた動きも多いようで子どもたちも興味津々、すぐに振りをマスターし、ノリノリで踊っていました！ Kiss Kiss さんは日本人ですが、ジャマイカ人男性と結婚し、出産とコロナで日本に戻ってこられました。もともと太っていることを気にしてダイエット目的でレゲエダンスを始めたそうですが、ジャマイカに行くと誰もそんなことは気にしておらず、生活は厳しくても、楽しくポジティブに生きているマインドに救われた、気持ちが解放された、と話しておられたのが印象的でした。

ゆーすとても、日本の窮屈な価値観に生きづらさを感じている子たちは多いと感じています。これからも、いろんな方と出会い、さまざまな価値観に触れながら自分を見つけ、自分の意志で羽ばたいていってほしいと願っています。



※本記事は「生野“食と農のプロジェクト”ニュース」No.94を一部改編して掲載しています

まちの喧騒をはなれて、いざ丹波篠山へ！



縁あって、9月に「coco sasayama」より丹波篠山産のコシヒカリ玄米を寄贈していただきました。玄米は子育て社会化研究会がおこなっている「なんでも相談会」や生野区内の事業所等、必要とされているところに配らせていただきました。

「coco sasayama」は大阪・中崎町のカフェで大学時代にアルバイトをしていた30歳の3人が中心となって、グループを立ち上げられました。3人のうちのお一人が丹波篠山市出身ということで、その方の実家を訪れた際に、都会では体験できないような風景等に感動されたそうです。しかし、きれいな田んぼのホタルが見られる川の夜景など美しい景観を支えているのは、実は担い手不足に悲鳴をあげている高齢者だったという現実を知り、なにか出来ないかと思ったそうです。その方の実家でも米や黒枝豆等をつくっていますが、跡を継ぐことは困難であったことから、「個人ではできないかもしれないが、仲間でも多くの人たちに参画してもらえようなかたちにすればやっていけるのではないか」ということで取り組みをはじめられました。

丹波篠山でも生野でも担い手不足は同じ課題です。そして、ひとりで、個人でということではなく、仲間として多くの人たちに参画してもらえよう仕組みづくりを考えられていることに共感を覚えました。玄米を寄贈していただいたときに黒枝豆を販売されていることを聞き、仕入れて販売させてもらえないかと打診したところ、とんとん拍子に話がすすみ、10月に2回にわけて販売しました。生野のネットワーク団体にも協力していただき、500g29袋、1kg52袋を販売することができました。

空家サイトに登録されていた貝田の空家を活動拠点にされ、現在、グループの人たち20人ほどでリノベーションしながら活動に取り組まれています。その活動拠点に11月3日にスタッフ5名とその家族の合計9名で訪れました。貝田の空家を活動拠点にしていなければ住民は地域活動が困難となり、隣の集落と合併という話になっていたそうです。そういった背景もあって、住民の方はとてもやさしく、いろんな情報を教えてくれたり、活動を手伝ってくださるそうです。実際に現地を訪れてみないとわからないこともたくさんありました。

訪れた日には、柿の収穫と木（枝）の剪定作業を手伝わせてもらいました。はじめての経験に子どもたちは大はしゃぎでした。『また来たい〜!』という子どもの声が次への活動のエネルギーにもなります。そして、大人たちは日ごろからの喧騒から離れ、大自然に囲まれた丹波篠山のロケーションとゆったりと流れる時間と空間に身も心も癒されました。訪れたときは木々が色づき始めていましたが、四季折々にその表情をきっと変えているはずで、来年予定されている田植えの場所を案内してもらい、稲の手植えも考えておられるようなので参加出来ればと考えています。

格差社会がどんどん広がっていき、世界ではいまなお戦争によって尊い命がいとも簡単に奪われています。エネルギー問題や価格高騰等この先の見通しの不透明さはますます増すばかりで、担い手不足の社会状況のなか”豊かさ”とは何なのか、考えさせられる活動でもありました。大阪から車でわずか1時間強の場所に、オアシスを見つけたような気がします。今後も「coco sasayama」とネットワークしながら活動に取り組んでいきたいと思えます。



よしおか とおる (吉岡 徹)

どんどんファッションショー!

2022年11月6日、クレオ大阪南にてどんどんファッションショーがありました。このファッションショーは、自立生活センター・どんどん（以下どんどん）が主催者です。どんどんは、障害者が社会参画するために様々な活動をおこなう当事者団体です。このファッションショーは、そのどんどんが主催するじりつ生活プログラム（以下ILP）のフィナーレとして開催されました。ILPでは、障害者が地域で自立生活を送るために必要な経験を積むことを目的としています。今回のILPは“おしゃれ編”です。全4回、5か月間にも亘る一大プログラムです。まず、「おしゃれって何?」「自分が着たい服ってどんな服?」という話から始まります。大体のイメージが決まったところで、今度は実際にヘルパーと服を選び、購入します。そして、そのお気に入りの服を着て、天保山の“映え”スポットにて写真撮影をおこないました。ファッションショーはこのILPおしゃれ編の集大成です。当日はどの参加者も満足気にレッドカーペットを歩く姿が印象的でした。その中でも一際輝いて見えたのがOさんでした。

〇さんは視覚と身体に障害があり、外出時は車椅子を使用しています。私は〇さんのヘルパーとして今回のILPに参加しました。普段、〇さんは服を購入するときはお母さんが同伴されるため、ヘルパーと服を買うことはあまりありませんでした。目が見えない〇さんにわかりやすく服の情報を伝えるのが難しく、選ぶのに時間を要しました。やっと納得のいく服を選び、会計をしました。利用した店はセルフレジでした。〇さんは慣れない様子で、折り畳んだままの千円札を機械に投入しようとしていました。慌てて私はお札を広げ、〇さんと一緒にお札を投入しました。お釣りと商品を受け取って店を出ようとしたその時、「やった！自分で支払いできた！」と〇さんが嬉しそうに叫んでいたのです。〇さんに聞くと、店員がいるレジでは支払いは自分でするものの、これまでセルフレジを使って自分で会計したことはなかったようです。そのため、「自分でできた！」と嬉しかったんだそうです。そんな〇さんの様子を見て、〇さんがこのILPに参加した意味が見いだせたような気がしました。

話をファッションショーに戻します。ミラーボールが回る中、大好きな音楽と共に、レッドカーペットの上をヘルパーと一緒に車椅子に乗って移動する〇さん。私のリクエストで車椅子から降りてダンスまで披露してくださり、会場を盛り上げてくれました。最後の決めポーズの後、面白いことが起こりました。他の参加者のKさんがずっと立ち上がり、〇さんの側に歩いていきました。観客全員が見守る中、何が始まるのかと思うと、Kさんは〇さんに「革ジャン着てみる？」と自らが着ていたお気に入りの革ジャンを〇さんに差し出しました。〇さんは革ジャンに手を通し、観客に披露しました。その日の〇さんのファッションに革ジャンはよく似合っていて、会場は大盛り上がり。革ジャンを貸してくださったKさんも満足そうで、2人で記念撮影もしました。実はILP1回目の時、革ジャンとはどんなものかを知らない〇さんに、Kさんが革ジャンを貸してくださったことがありました。そのことをKさんは覚えていたのか、ファッションショーでもまた〇さんに革ジャンを貸してくれたのです。こんな風に参加者間で自然発生的に知らないことを伝え合う様子に私は感動しました。



今回のILPとファッションショーにおいて、〇さんが参加して下さってよかった！と私は心から思いました。来年度は他団体と合同でILPを企画する予定です。どんなILPになるのか、今から楽しみです。

ひさまつしょうこ
(久松祥子)

こそだ にっき スタッフ子育て日記

2006年に初めて『子育てスタッフ日記』で記事を書かせていただいてから、17年がたちました。2006年に5歳だった長女が22歳(大学4回生)、1歳だった次女はもうすぐ18歳(高校3年生です)。2023年、娘たちは同時に卒業を迎え、新しい世界へ飛び立つ年となりました。



長女は、12月末に約1年間の就職活動をやっと終え、会社に内定をいただきました。好きなだけでは仕事としてやっていけないことを知り、悩み、これまで一番自分に向き合ったしんどい1年間だったと思います。とても真面目で面倒見もよいのですが、少々人見知りの長女。この人たちとなら一緒に頑張れる!と思えるような職場に出会えたらいいなあ。看護師を目指していた次女は、私たちの想定を超え、アジアを学ぶために大学に行くことになりました。突然、韓流アイドルに魅了され、同時にアジアへの興味が湧いたそうです。とってもユニークで、よく笑う次女ですが、実は繊細で人付き合いがちょっと苦手。将来、『ありのままのあなたでいい』と言ってもらえるような出会いがあればいいなあと思います。



これからは、これまで以上に大きな決断を、自分でしていかなければなりません。もう、「ママたちがそう言うたから…」なんて言い訳ができなくなります。眠いし、しんどいけど、洗濯せなあかんし、ごはん作らなあかんし、病院連れて行かなあかんし、保育園の行事もあるし、もちろん仕事もあるし、と泣きながら夜中に洗濯物を干した日々も、自分で選んだから頑張れたのだと、今では思えます。私のお小言も聞き流されるようになり、もう見守ることしかできませんが、2人がこれからどんな人生を選び、歩んでいくのか、とても楽しみにしています。私も、子どもたちに負けないように、まだまだ楽しみます!

『実りある日々を育み、ゆっくりでいいのであゆんでいてもらいたいです。』

いちかわ
(市川よしみ)



活動のあと

9/1 インターンシップ学生受け入れ(8/5~9/1)	11/8 虐待防止委員会(内部)
9/2 グループホームスタッフ全体会議/研修委員会	11/9 生野区学童期のこども支援連絡会役員会
9/7 安全委員会	生野区グループホーム連絡会(BCP 研修)
9/9 防災委員会/職員研修受け入れ(イエス団)	IKUNO サラダボウル・プロジェクトミーティング(松野農園)
9/12 生野区相談支援事業所連絡会	11/10 生野未来学園サツマイモ収穫祭(松野農園)
9/14 消防署立ち入り検査	八尾事件を考える会
生野区学童期のこども支援連絡会役員会	11/11 ハローワーク合同面接会
消防設備等法定点検①	11/11~19 実習生受け入れ(関西大学)
生野区グループホーム連絡会(事業所交流会)	11/12 内部研修(発達障害勉強会)
9/15 消防設備等法定点検②	11/14~27 実習生受け入れ(四天王寺大学)
9/16 障大連・大阪市ブロック会議報告(どんどん)	11/14~30 内部研修(虐待防止研修①YouTube 配信)
~9/16 実習生受け入れ(関西大学)(8/16~9/16)	11/16 防災委員会/生野区地域福祉協議会
9/17 内部研修(発達障害勉強会)	11/17 聖フランシスコ会生野みんなの家庭理事会
子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	11/18 内部研修(虐待防止研修②)
9/18 みらくるクラブ【ハイキング】(須磨離宮公園)	地域共生ケア生野推進委員会(成年後見)
ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編②】	見学受け入れ(守口オールケア学院)
しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【料理編①】	11/19 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)
9/21 生野区学童期のこども支援連絡会	11/20 しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【料理編③】
9/22 大阪市実地指導/出発通信発送	太極拳発表会(第7回みんなでゆ〜楽太極拳)
9/24 いくのパークお披露目開所式	11/21 内部研修(虐待防止研修③)/生野区相談支援事業所連絡会
9/25 生野東ご近所つながりマルシェ	11/22 内部研修(虐待防止研修④)/BCP 研究会
9/27 上半期どんどんプロジェクト会議	11/23 第13回被災障害者⇄関西ポジティブ生活文化交流祭
9/28 内部研修(生活介護職員研修)/生野区 NPO 連絡会	11/24 たびだちミニ運動会
9/29 研修委員会	11/25 内部研修(人権研修①)/どろん(松野農園)
しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【料理編】	地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会
Eプロジェクト会議(どんどん)	11/26 内部研修(人権研修②)
9/30 ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編】	みらくる ゆーすと ジャマイカまつり
Eプロジェクト会議(どんどん)/どろん(松野農園)	11/26~27 いくのみんなの文化祭(作品出展)
障大連運営委員会	11/28 内部研修(人権研修③)
10/5 執行委員会	IKUNO サラダボウル・プロジェクトミーティング(松野農園)
グループホーム再編に対する緊急行動ネットワーク会議	11/29 理事会/執行委員会
10/6 生野区相談支援事業所連絡会役員会	11/30 内部研修(人権研修④)
10/7 グループホームスタッフ全体会議	内部研修(生活介護職員研修)/生野 NPO 連絡会
10/7~8 みらくる ゆーすと合宿	生野東ご近所つながり食育交流会(インフィニティ国際学院)
10/12 生野区学童期のこども支援連絡会役員会	内部研修(人権研修⑤)
生野区グループホーム連絡会世話人会	12/2 内部研修(人権研修⑥)/グループホームスタッフ全体会議
10/15 みらくる ゆーすと勉強会	生野区相談支援事業所連絡会役員会
子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	12/5 IKUNO サラダボウル・プロジェクトミーティング(松野農園)
10/16 ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編③】	12/7 見学(暮らしづくりネットワーク北芝)
しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【料理編②】	12/11 大阪障害者自立セミナー2022
10/17~ 実習生受け入れ(四天王寺大学)	12/13 三田先生との懇談会
10/19 ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編】Eプロジェクト会議(どんどん)	12/14 生野区学童期のこども支援連絡会役員会
生野区学童期のこども支援連絡会	生野区グループホーム連絡会世話人会
10/20 不登校・ひきこもり支援連絡会	12/15 大阪市オールラウンド交渉①
10/21 防災委員会/生野区学童期のこども支援連絡会	生野区相談支援事業所連絡会
10/22 内部研修(発達障害勉強会)	12/16 内部研修(虐待防止研修⑤⑥)
10/22~23 ビーブルファースト大会 in 北海道	大阪市オールラウンド交渉②
10/25 執行委員会/防災委員会	12/17 内部研修(発達障害勉強会)
10/26 内部研修(生活介護職員研修)	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)
生野 NPO 連絡会研修・役員会	12/19 内部研修(新職員研修①)
10/27 ハローワークバーチャル面接会	IKUNO サラダボウル・プロジェクト交流会(松野農園)
10/28 どろん(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会役員会	12/20 虐待防止委員会/内部研修(新職員研修②)
障大連運営委員会	12/21 内部研修(生活介護職員研修)
グループホーム再編に対する緊急行動ネットワーク会議	12/22 内部研修(新職員研修③)
10/29 生野区学童期のこども支援連絡会(ハロウィンイベント)	12/23 地域共生ケア生野推進委員会役員会
10/30 内部研修(職員パワーアップ会議)	12/25 IKUNO サラダボウル・プロジェクト交流会(松野農園)
11/1 しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【料理編】Eプロジェクト会議	12/26 門松づくり
11/4 グループホームスタッフ全体会議	12/27 執行委員会
11/6 ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編④】	12/28 生野 NPO 連絡会
11/7 生野区学童期のこども支援連絡会見学(暮らしづくりネットワーク北芝)	12/28~ 介護職員初任者研修講師

一 九 八 四 年 八 月 二 十 日 第 三 種 郵 便 物 承 認 発 行 人 関 西 障 害 者 定 期 刊 行 物 協 会 大 阪 市 天 王 寺 区 真 田 山 町 二 一 二 東 興 ビ ル 4 階 頒 価 百 円

編集後記

2023年が始まりました☆
 本年もよろしく願いいたします！(山吹)
 まちがいさがしの答えは…
 ① 当法人キャラクター「たびたん」の帽子
 ② うさぎの顔(かぶり物+ウインクしている)
 ③ 「たびたん」のTシャツ でした！

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
 〒544-0011
 大阪市生野区田島1-10-30
 たびだち共働作業所内
 TEL 06-6758-6641
 FAX 06-6758-6749
 郵便振替 00910-9-306080
 (特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
 ホームページ <https://www.tabidati.jp/>
 750部